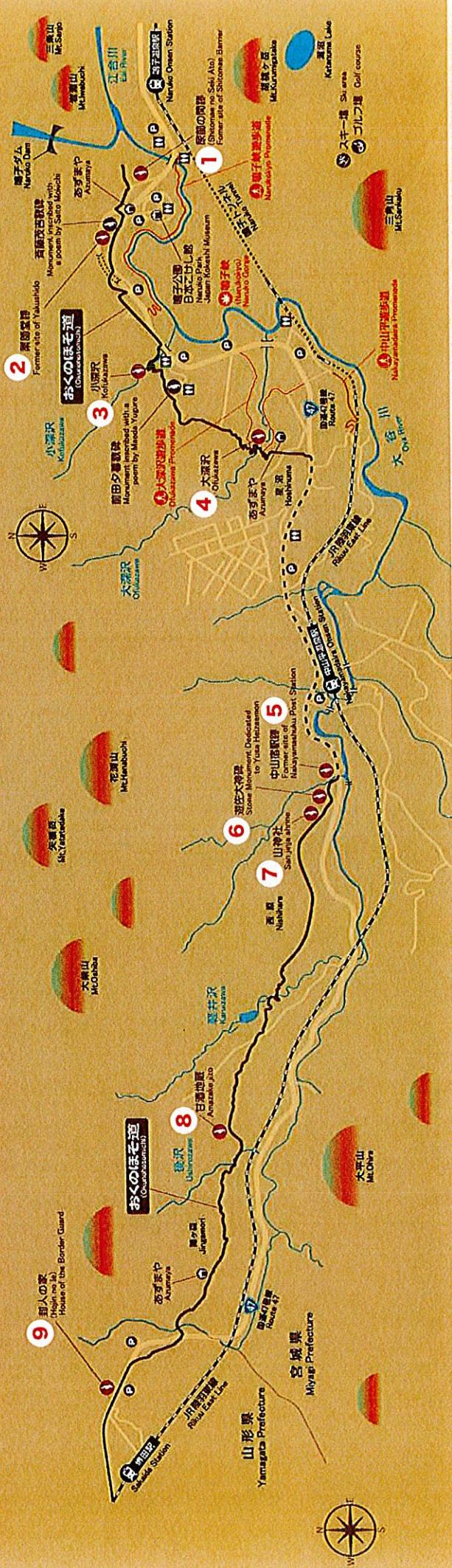


鳴子温泉郷 おくのほそ道



例	—	おくのほそ道 (Okuno-hosodou)
—	—	入口のほそ道 (Ishinomachi)
■	トイレ	Toilet
□	川	River
○	駐車場	Parking
◎	スキー場	Ski area
●	駅	Station
△	ゴルフ場	Golf course
▲	山	Mountain

松尾芭蕉の「おくのほそ道絶行」に登場する名生定、小黒崎、美豆の小島などの名称は、平安時代の昔から風光明媚な歌枕の名勝地として知られ今日まで連綿として使用され続いている。だが、松尾芭蕉が通った1689年(元禄年間)頃は、領国境という地勢から尻前の関を通して羽前(現山形県)に向かうことは厳しい山越え谷越えの連続で大変な思いをしたと述懐している。

現在は当時の雰囲気を味わうことのできる「おくのほそ道」出羽・仙台街道として整備されている。

大和時代から鎌倉、室町そして戦国時代を経て江戸時代まで大陸地方は政治、経済、文化等、様々な変遷を繰り返してきた。平安時代に朝廷は先住民蝦夷との権力闘争に勝利し、名実共に武士が政治の実権を握る鎌倉幕府開幕まで朝廷支配が続くが、その後は武士による国家統制が行われれる。室町時代には武士達がお互いに領土拡張や権力闘争のため度々戦乱を引きこし、室町時代の政治は安定しないまま戦国時代の世に入った。

この頃陸奥地方を治める大崎氏は羽前(現山形県)及び羽後(現秋田県)と隣接する鳴子地域の尻前(関所)を設け、隣国との往来に神経を使っていたことが窺われる。

各地点の説明一覧

尿前の関跡

伊達藩の辰前櫻目番所であった。間口40帖、奥行き44帖、面積1760坪。周囲には、切石垣の上に土塀をめぐらし、屋敷内に辰前屋門・役宅（187坪）・土蔵等10棟が建っていた。この範囲を中心には、辰前宿舎もあった。

元禄2年（1689）邑澤と皆木行脚の途「関宿にてあやしめて取締りの厳しい番所であつた。



關前の尿

古からこの判例は通常として権が取られ、天明二年（一七八〇年）の「山田伊弉諾の監鑒」によると、「子孫入遊佐敷之丞」には、「巴森と伊豆守の間に多數論居て中間査のあとありむ」とある。元禄二年（一六九五年）の「吉田義理の監鑒」では、「巴森と伊豆守の間に多數論居て中間査のあとありむ」とある。

南部道はるかに見やりて岩手の里に沿る
小県崎水の小崎を過て
那須の湯より辰(シト)前の闇にかけて出羽の国に越むとす
人稀なる處なれば関守にあやしめられて新にして関をこす

義經伝説弁慶の船弓引き

陸奥の國に入った義経一行は尻前の関守館に旅姿をと

今まで受けた川下の川原屋に案内された。北の方はどこまでも川を駆けめぐらす船頭さんと共に沿って、長途の虞れのほか色々な船頭さんとお話しして、毎日の送り迎えは舟運後の大変だった。船上の日記だった。

以前、上層には船運船引という地名があったが、これは北の方の毎の入浴に舟が流れを擡いで船を引いたこと

2 葉師堂跡

薬師堂は安永(1772)以前に、建てられた村の鎮守である。後のお堂は温泉神社に移され、現在は宝珠のみ残っている。元戸総守所から薬師堂まで1町55間のけわしい坂道で、両坂とも薬師坂ともいっている。



深澤

小堀沢は出羽街道の中でも、けわしい沢の一つで、深い谷へ下りて轍をなさない九十九折の道である。元禄2年(1689)5月、芭蕉と留良が通った頃は、谷底へ下りて堤を跨ぎ、堤上を往復する場所であった。元禄10年に「小堀沢宿」が開かれ、そこには「小堀沢坂をさへ6間、難波宿後」と書かれていた。



4 深澤・越元・中野街道出羽

中山宿駅跡

王道五番駅(岩出山下宮・鎧治宮・郡原・中川町)の一つで、
皇子村原前、町へ移る、遊佐平郎・平石衛門父子の足跡
によつて、慶永2年(1625)に設けられ、廃絶がおこなつた。
篠木には「東西1町1間、南北33間、戸数10戸、人口41
人の規模であつたといひやうでいる。



游佐大神の碑

鳴子村辰前の所へ、焼断、逆平左衛門尉は、対岸の台地、南原に開田するため、東遠鑿堀から5・732間(1331m)の穴を掘り、万治2年(1659)19年の歳月を要して、引水に成功した。



神宿の山中行説 緯義



甘酒地圖

封人の家

「主人の家」とは国境を守る人の家のことで、仙台城下を接する新庄朝鮮田の庄屋の家、つまりこの町筋宿宅であるといわれています。二二一年(689年)五月一日、伴麻羅是門の長民をもなつて仙台城の原町の間を越え、出羽の國へ旅館を急ぎました。しかし、もう日暮れが近づいてしまいました。

「大山を登つて日没すれば、
封の家を見ぬかひを失す。
三日月夜のぼせ道に迷出す。 金馬の居するやがて方
ど西風はおののきさむ山中に迷っています。朝の雨のめがゑの方
なく十時まで二泊三日、この家に滞在しているのです。

